

戦時下の暮らしを伝えるある市民の活動

小棚木 幸子^{*1}・戸田 恭司^{*2}

A Citizen's Activity to convey life during the Pacific War

Yukiko KOTANAGI^{*1} and Kyoji TODA^{*2}

釧路市立博物館友の会会員で、釧路市内在住の小棚木幸子(こたなぎ ゆきこ)さんは、市内に残るトーチカなどの戦争に関わる構築物について調べられ、その結果を市民に紹介する現地見学会や、釧路空襲で犠牲になった方々を慰霊する集いを開催して、戦争があったことを後世に伝えようと活動されている。前者は「戦争遺跡」「戦跡」と呼ばれることが多い構築物を実際に見学することで、市民に新たな関心呼び起こしてきた。

今回、市民の一人として戦争をどのように伝えていこうとされているのかを伺う機会を得た。小棚木さんのお話とあわせて、調べられてきた市内に残されている構築物についても紹介したい。

私は釧路市の郊外にある仁々志別という地域で1949年に生まれました。2007年の合併前は阿寒町仁々志別と呼ばれた所です。高校卒業後、釧路に出ましたが、一旦は離れて再び釧路に戻ってきました。性格的にさまざまなことに興味をもっては始めてしまうようです。

敵からの攻撃への備えとして造られたトーチカと実際に出会ったのは、フロッタージュの作品制作で知られる岡部昌生さんのワークショップが市内で行われた際に参加した時で、2005年のことです。作品の対象としたのは市内大楽毛南に残されているトーチカ。名前だけは知っていましたが、どんなものなのか興味があったのです。

実際の作業は、トーチカの壁に紙を当ててその上からこすって表面のようすを紙に写しとるというものでした。その作業の前に、釧路高専で建築が専門の西澤岳夫先生がトーチカとはどのようなものなのかを説明してくださいました。トーチカそのものについて理解できましたし、またこれまで何気なく見ていたものが実はトーチカだったということも、この時初めて知りました。別な機会に、自分の先祖を調べることがあり、先祖の墓をフロッタージュして記録する際にこの時の経験が生きました。

戦争に関わるものが残されている、これは保存していくべきではないか…。ワークショップを終えてからそのような思いが芽生えて、翌月に「釧路の傷あと探しフィールドワー

ク」という会を立ち上げ、トーチカや慰霊碑など戦争に関わる場所を市民の方々と見て回ることを始めました。

その後、昔の暮らしを伝えようと当時の道具などを収集されている「なつかし館」の中野吉次さんが、所有する道具を展示する「昭和のくらし展」が2008年に釧路市観光国際交流センターで開催されました。開催に際して、中野さんからスタッフとしてお手伝いいただけないかとお誘いを受けて参加しました。お手伝いするかかわら、来場者にアンケートをとりたいとお願いして、トーチカ・奉安殿・釧路空襲をご存知ですかと皆さんに伺いました。

結果、トーチカが残されていることを知らない方がほとんどでした。あらためてトーチカのことを広く知っていただきたいと思いました。また、釧路空襲(1945年7月14日・15日)を伝える必要性を訴える方もいらっしゃいました。この展示会をきっかけに、これまでの活動をさらに進めようと「釧路『負の遺産を守る』の会」と会の名前を改めました。

会の活動の中心は、現地集合・解散というツアーの形をとって、トーチカはもとより、当時の学校に置かれていた奉安殿なども参加者と一緒に見て回っています。トーチカを実際に見るのが初めての方ばかりでした。トーチカを前にして、自分が調べてわかったことを参加者の皆さんにお話しています。あわせて手作りの資料もお配りしています。皆さんにお話しするためにさまざまな情報を集めました。当時のようすをご存じの方から聞き取りしたり、いただいた情報を頼りに現地へ赴いたり、図書館で関係する文献や昔の新聞記事を探したり、さらに情報を得て当時トーチカの建設に携わっていた市外在住の方を訪ねていったこともありました。

現存するトーチカは4基。多くの方が目にされていると思われるのが大楽毛の阿寒川河川敷にあるトーチカです。国道からもJRの車窓からも見ることができます。また、大楽毛南1丁目のものは空き地にポツンと建っていて中への入り口が開いています。新富士町のもは一般住宅に隣接していて、かつては住宅としても使用されていたそうです。また、これまでに姿を消したトーチカは調べたところ6基。戦後、やはり住宅として使われていたものが何基もあり、そ

※1 釧路「負の遺産を守る」の会 The group for preserving negative heritage in Kushiro

※2 釧路市立博物館 Kushiro City Museum

の暮らしぶりが当時の新聞で紹介されていました。

戦争による資材不足のため、ほとんどのトーチカは鉄筋の入らないコンクリート製です。造られてからすでに80年近く。年々風化が進んでいるようで、これらを保存するためには残されている時間はあまりありません。トーチカがある土地の所有者に保存する意義をお話ししましたが、保存するための良い方法が見つからず、事態は進んでいません。保存を呼びかける一方で、できるだけ多くの方々に実物を見ていただきたい、現状を知っていただきたいと活動をしています。数年前には市外の小学校からも依頼があり、お話と現地の見学を行いました。30人くらいは入れる広さがあるトーチカの中も見てもらいました。子供たちは興味深そうに見入っていましたね。

このトーチカのほかに、天皇の御真影が収められていた奉安殿が市内には3基残されています。一部が崩壊してしまった1基を除くと、神社の社殿などとして再利用されています。天皇崇拝の象徴ともいべき遺構で、あわせて戦争を語る貴重なものと思っています。

戦争に関わる活動としては、釧路空襲が行われた7月14日に犠牲者を慰霊する「釧路空襲慰霊の集い」を2009年から始め、計9回行いました。会場は市内の栄町平和公園内にある戦災記念碑前。このあたりは住宅が立ち並んでいた場所であり、多くの犠牲者が出ました。市民の皆さんの協力をいただきながら、「心」の文字をかたどったローソクに明かりを灯し、市内在住の書家の協力を得て犠牲者の名前を書き連ねた板を立て並べました。会場では、空襲の体験者なども交えて、来場される方から空襲に関わる話を伺ったりして、戦争について語る機会を提供しました。それまで空襲のあった日に犠牲者を追悼する

ようなことが行われていなかったことから始めたものでした。その後はローソクの点灯などは行わないで記念碑の前にたたずみ、そこを訪れた方とお話することを続けています。

これまで紹介した「釧路『負の遺産を守る』の会」の活動はほぼ私一人が行っています。できれば同じ志を持った方を増やしたいと思っています。大切なことを伝えていくのは自分たちの責任です。

「子どもの世界にはいつも平和としあわせが約束されていなければなりません」

終戦から20年後、市内小学校の炊事遠足中、海岸に流れ着いた旧日本軍の爆雷が爆発し、4名の尊い命が奪われる事故が起きました。同校の校庭に建てられた慰霊碑にこの言葉が刻まれています。私の心に残っている言葉です。

小棚木さんが調べられた構築物は位置図(図1)とあわせて表1にまとめた。現在までに消滅したトーチカは小棚木さんが行った聞き取り調査から得た情報によった。

戦争の記憶を持つ方々の高齢化が進んでその数を減らす中で、市民による戦争を伝える活動は貴重と言える。戦争はまちの歴史を残していく上での大きなテーマである。地域にある博物館として、当時を物語る構築物が持つ価値を再認識して情報の発信につなげ、市民の関心を高めていく。薄れてゆく戦争の記憶を、市民とともに伝えていく必要性をあらためて感じている。

なお、小棚木さんから伺ったお話は当館職員戸田恭司がご本人の了解を得てまとめました。

No.	名称	住所	摘要
1	トーチカ	市内新野	
2	トーチカ	市内大楽毛	阿寒川河川敷
3	トーチカ	市内大楽毛南5丁目	聞き取りによる 消滅
4	トーチカ	市内大楽毛南1丁目	
5	トーチカ	市内星が浦南5丁目	聞き取りによる 消滅
6	トーチカ	新富士町6丁目	聞き取りによる 消滅
7	トーチカ	新富士町4～5丁目	聞き取りによる 消滅
8	トーチカ	新富士町2丁目	
9	トーチカ	浜町	聞き取りによる 消滅
10	トーチカ	浜町	聞き取りによる 消滅
11	奉安殿	桜田	旧湯波内国民学校奉安殿 桜田秋葉神社社殿として利用
12	奉安殿	鳥取大通4丁目	旧鳥取国民学校奉安殿 報恩祠堂（鳥取神社境内）として利用
13	奉安殿	春採7丁目	旧湖畔国民学校奉安殿
14	銃座	興津3丁目	
15	電波警戒陣地	桜ヶ岡8丁目	
16	電波警戒陣地	尺別	

表1 構築物一覧



No.1 トーチカ 市内新野 2008年 小棚木



No.2 トーチカ 市内大楽毛 2005年 小棚木



No.4 トーチカ 大楽毛南 2005年 小棚木



No.8 トーチカ 新富士町 2006年 小棚木



No.11 旧湯波内国民学校奉安殿 2018年 戸田



No.12 旧鳥取国民学校奉安殿 2013年 小棚木



No.13 旧湖畔国民学校奉安殿 2006年 戸田



No.15 電波警戒陣地 桜ヶ岡 2013年 小棚木



図1 建築物の位置

この地図は国土地理院Webサイト「地理院地図」を使用し、筆者が情報を追記したものである。